



第1回 エズラ・ヴォーゲル記念フォーラム アジア研究の過去・現在・未来

2023.

7. 1 (土)

参加無料
日英同時通訳

開催日/

時間/ 13時00分~17時00分 受付開始/ 12時30分

会場/ 愛知大学名古屋キャンパス グローバルコンベンションホール

オンライン配信/ Zoomビデオウェビナー

主催/ 愛知大学国際中国学研究センター (ICCS)
共催/ 中日新聞社 ハーバード大学日米関係プログラム
ハーバード大学アジアセンター
後援/ 愛知大学教育研究支援財団 愛知大学同窓会

『Japan as No.1』の著者

Ezra・F・Vogel/傅高義
故 **エズラ・ヴォーゲル** 氏
ハーバード大学 名誉教授

プログラム

第一部 開会式と記念講演 (13:00~14:20)

- ・開会の挨拶と趣旨説明 李春利 (愛知大学国際中国学研究センター所長・大学院長)
- ・ヴォーゲル夫人のビデオメッセージとエズラ・ヴォーゲル博士の映像上映
- ・記念講演: クリスティーナ・L. デイビス
(ハーバード大学日米関係プログラム所長・ICCS顧問)

演題: 「エズラ・ヴォーゲル博士の回想—アジア研究の継承と発展—」

第二部 パネルディスカッション (国際研究機構との合同プログラム) (14:20~17:00)

テーマ: 「アジア研究の過去・現在・未来」

パネリスト: クリスティーナ・L. デイビス (ハーバード大学日米関係プログラム所長)
ジェームズ・ロブソン (ハーバード大学アジアセンター所長)
リチャード・ダイク (ハーバード大学アジアセンター顧問)
今井耕介 (ハーバード大学教授)
趙全勝 (アメリカン大学教授)
益尾知佐子 (九州大学教授)

共同モデレーター: 李春利/佐藤元彦 (愛知大学国際研究機構長)

- ・国際研究機構研究フォーラムの内容紹介 佐藤元彦
- ・冒頭発言 クリスティーナ・L. デイビス/ジェームズ・ロブソン/リチャード・ダイク/今井耕介/趙全勝/益尾知佐子
- ・一般討論&質疑応答
- ・総括 李春利/佐藤元彦
- ・全体講評&閉会の挨拶 鈴木孝昌 (中日新聞社取締役) /川井伸一 (愛知大学理事長・学長)

◆定員/ 会場200名、オンライン500名 (定員人数になり次第、受付終了)

◆申込締切/ 6月28(水)まで

◆参加申込方法:ICCSホームページにて
<https://iccs.aichi-u.ac.jp/event/entry-4926.html>



<お問い合わせ> 愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務室
〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町4-60-6 TEL:052-564-6120
URL:<https://iccs.aichi-u.ac.jp> Email:iccs-event@ml.aichi-u.ac.jp



登壇者プロフィール

クリスティーナ・L. デイビス(Christina L. Davis)



ハーバード大学日米関係プログラム所長、エドウィン・O・ライシャワー日本政治学教授、政治学部教授、愛知大学国際中国学研究センター顧問、Japanese Journal of Political Science共同編集長。ハーバード大学で東アジア研究の学士号、政治学博士号を取得、故エズラ・ヴォーゲル教授に師事。プリンストン大学政治学部及びウッドロウ・ウィルソン公共政策スクール教授を歴任。専門分野は国際政治、貿易政策、日本及び東アジアの政治外交政策の研究。主な著書に、*Discriminatory Clubs: The Geopolitics of International Organizations*, Princeton University Press, 2023など多数。

ジェームズ・ロブソン(James Robson)



ハーバード大学アジアセンター所長、James C. Kralik and Yunli Lou Professor、東アジア言語と文明学部教授、ハーバード大学サマースクール日本プログラムディレクター、東アジア地域研究修士プログラムディレクター、東アジア地域研究議長(2019-2020年)。

ロブソン教授は、中国、台湾、日本(京都大学)で長年研究を行った後、2002年にスタンフォード大学にて博士号を取得。研究分野は中国の仏教、道教、中国と日本の禅宗など東アジア宗教史。著書に、*Power of Place: The Religious Landscape of the Southern Sacred Peak[Nanyue 南嶽]in Medieval China*(Harvard University Press, 2009年、フランスアカデミー Stanislas Julien賞、カリフォルニア大学バークレー校 Toshihide Numata仏教優秀賞受賞)など多数。

リチャード・ダイク(Richard Dyck)



ハーバード大学アジアセンター顧問、ハーバード大学にてPh.D及びMAを取得、故エズラ・ヴォーゲル教授に師事、故ヴォーゲル教授最後の著書『日中関係史』(第7章)の共著者。半導体検査を専門とする企業TGK-Japan株式会社のオーナー兼代表取締役、プライベート・エクイティ投資会社である日本産業パートナーズ株式会社取締役。日本貿易振興機構(JETRO)、笹川平和財団、日米友好基金などの理事を歴任。1999年に内閣総理大臣より国際貿易への貢献により表彰を受ける。現在、石橋湛山元首相の政治思想などに関する研究書を執筆中。

今井耕介(Kosuke Imai)



ハーバード大学政治学部、統計学部教授。専門は政治学方法論、一般的には社会科学分野における応用統計学。1998年東京大学教養学部卒業後、ハーバード大学にて統計学修士号、政治学博士号を取得。プリンストン大学教授を歴任、Society for Political Methodology会長を務め、2017年にはフェローに選任。東京大学法学部・大学院客員教授を兼務する。著書に、*Quantitative Social Science: An Introduction*(Princeton University Press, 2017)。邦訳『社会科学のためのデータ分析入門(上)(下)』(岩波書店、2018年)。

趙全勝(Zhao Quansheng)



米国アメリカン大学国際関係学部教授、アジア研究委員会委員長、ハーバード大学フェアバンク中国研究センター一研究員、北京大学、復旦大学、高麗大学客員教授、中国政治学グローバル・フォーラム召集人。北京大学国際政治学部卒業、カリフォルニア大学バークレー校にて政治学博士号を取得、ハーバード大学でポストドクターとして研究後、タフツ大学フレッチャー・スクールで教鞭を執る。東京大学・ハーバード大学研究員、米国平和研究所フェロー、香港科学技術大学客員教授、ハワイ東西センター・リサーチ・フェローを歴任。著書に*Great Power Strategies: The United States, China and Japan* (Routledge, 2022)など多数。

益尾知佐子(Chisako T. Masuo)



九州大学大学院比較社会文化研究院教授。専門は国際関係論、現代中国の政治外交。東京大学教養学部卒業、同大学院総合文化研究科にて博士(学術)を取得。日本学術振興会特別研究員(DC1、海外)、日本国際問題研究所研究員、故エズラ・ヴォーゲル教授研究助手を経て、2008年から九州大学で勤務。ハーバード大学イエンチン研究所協働研究員、中国社会科学院訪問学者などを歴任。故ヴォーゲル教授の著書『現代中国の父 鄧小平』(上下)の共訳者、『日中関係史—1500年の交流から読むアジアの未来』の翻訳者を務める。著書に『中国の行動原理—国内潮流が決める国際関係』(中公新書、2019)など多数。